

平成 20 年度

当別町地域公共交通活性化・再生総合事業
実績報告書

平成 21 年 4 月

当別町地域公共交通活性化協議会

《 目 次 》

第1部 地域公共交通活性化協議会の開催

- 1. 協議会設置の背景と目的 1
- 2. 会議の開催 4

第2部 コミュニティバス実証運行事業

- 1. 当別ふれあいバス実証運行事業の概要 5
- 2. 運行データの分析 6
- 3. 運行コストと運行収入 13
- 4. S u i S u iふれバの実績 16

第3部 設備の充実

- 1. 待合所の設置 17
- 2. 車内アナウンスシステムの整備 18

第4部 利用促進策の実施と公共交通サービスに関する情報提供

- 1. 小中学生向けモビリティ・マネジメントの実施 19
- 2. ニュースレターの発行・交通マップの作成 22
- 3. 使用済みてんぷら油回収システムの導入 23
- 4. 利用促進ツアー・車内展示会の実施 26

第5部 調査・研究

- 1. OD調査の実施 27
- 2. 物流システム導入調査 28

第5部 まとめ

- 1. 当別町コミュニティバス実証運行事業のまとめ 30
- 2. 活性化事業に関するまとめ 32
- 3. 次年度に向けて 33

別冊 参考資料

平成20年度 地域公共交通活性化再生総合事業計画	1
平成20年度 当別町コミュニティバス実証運行事業計画	9
ニューズレター（第1号～第7号）	23
バスマップ	39
小中学生向けモビリティ・マネジメント使用スライド	40
弁華別中学校授業実施後アンケート調査の結果	46
利用促進ツアーにおけるアンケート調査の結果	50
物流システム導入アンケート調査の結果	55
バスOD調査の実施結果	62

第1部 地域公共交通活性化協議会の開催

1. 協議会設置の背景と目的

(1) 当別町コミュニティバス実証運行

当別町では、平成17年度に『当別町バス交通体系調査事業』を実施し、委員会を設置して町内及び札幌市あいの里地区までを多目的に運行されている複数のバスの一元化について調査・検討を行い、その結果を基に、平成18年度に『当別町コミュニティバス実証運行事業』を行った。

バスの一元化にあたり、事業の実施は当別町が行っていたが、負担金に関する調整、路線・ダイヤの検討、その他バス運行に関する協議を行うため、負担金を拠出する事業者（以下参加事業者）と、バスを運行する事業者（以下運行事業者）で構成する『当別町コミバス事業者連絡会議』を設置した。事業の実施主体が地域公共交通活性化協議会へ移行した後も会議を継続し、負担金や路線の検討などを行った。

選任区分	所属・役職	氏名
参加事業者	北海道医療大学 経営企画部総務企画課長	鈴木 邦仁
	スウェーデンハウス株式会社 グループリーダー	中村 慧一
	医療法人社団とうべつ整形外科 看護師長	北村 佳代子
運行事業者	有限会社下段モーターズ 代表取締役	下段 寿之
事務局長	当別町 企画部長	増輪 肇

表1-1-1 当別町コミバス連絡協議会名簿(平成21年1月時点)

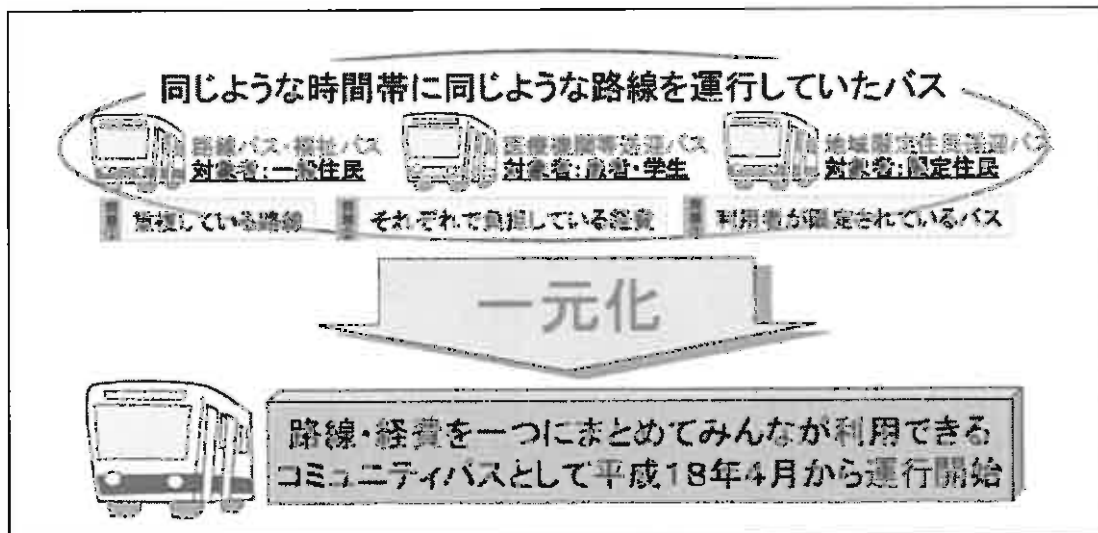


図1-1-1 当別町コミュニティバス一元化イメージ

(2) 当別町地域公共交通会議の設置

平成18年の道路運送法の改正により、一路線200円の定額料金や柔軟な路線設定を継続するために、地域公共交通会議での協議が必要となることから、平成19年8月に『当別町地域公共交通会議』を設置し、料金設定やダイヤ改正の協議を行った。

選任区分	所属・役職	氏名
当別町長が指名する者	当別町 副町長	近藤 充徳
	当別町 企画部長	増輪 肇
	当別町 福祉部長	武井 久幸
	当別町教育委員会事務局 教育部長	高橋 通
北海道運輸局札幌運輸支局長が指名する者	北海道運輸局札幌運輸支局 主席運輸企画専門官	今 武
北海道石狩支庁長が指名する者	北海道石狩支庁地域振興部 地域政策課長	平 修
札幌地区バス協会の代表	社団法人北海道バス協会 専務理事	岩崎 友雄
当別町コミュニティバス実証運行事業 参加事業者の代表	北海道医療大学 経営企画部長	小野 正道
	北洋交易株式会社 グループリーダー	中村 慧一
	医療法人社団とうべつ整形外科 看護師長	北村 佳代子
一般乗合旅客自動車運送事業者の代表	有限会社下段モータース 代表取締役	下段 寿之
一般貸切旅客自動車運送事業者の代表	山内建材工業株式会社 代表取締役	山内 孝司
一般乗合旅客自動車運送事業者の事業用運転手が所属する団体等の代表	有限会社下段モータース 代表取締役常務	下段 世志雄
地域住民及び団体の代表	当別町行政推進員連絡協議会 代表	鈴木 智久
	当別町PTA連合会 会長	安藤 頼孝
	当別町高齢者クラブ連合会 会長	高木 馥美
	当別町女性団体連絡協議会 会長	東谷 たまえ
	当別町ボランティア連絡協議会 会長	渡邊 ヨキ子
	当別町商工会 事務局長	竹原 陽一
	当別町社会福祉協議会 主幹	藤原 徹

表 1-1-2 当別町地域公共交通会議名簿(平成19年12月時点)

(3) 当別町地域公共交通活性化協議会の設置

平成19年10月に施行された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、当別町地域公共交通総合連携計画を策定し実施するため、『当別町地域公共交通活性化協議会』を設置した。当別町コミュニティバス実証運行事業も連携計画に含め、実証運行を行った。また、前述の当別町地域公共交通会議を包含した会議とし、連携計画に基づく事業の実施のほか、路線・ダイヤの協議も行った。

選任区分	所属・役職	氏名
当別町長が指名する者	当別町 副町長	近藤 充徳
	当別町 福祉部長	武井 久幸
	当別町教育委員会事務局 教育部長	高橋 通
北海道運輸局札幌運輸支局長が指名する者	北海道運輸局札幌運輸支局 主席運輸企画専門官	小林 篤
北海道石狩支庁長が指名する者	北海道石狩支庁地域振興部 地域政策課長	平 修
札幌地区バス協会の代表	社団法人北海道バス協会 専務理事	岩崎 友雄
関係する道路管理者	札幌開発建設部札幌道路事務所 第2維持課長	鈴木 伸二
	札幌土木現業所 当別出張所長	矢本 琢也
	当別町 建設水道部長	滝本 隆志
関係する鉄道事業者	JR石狩当別駅長	久保 聖章
当別町コミュニティバス実証運行事業 参加事業者の代表	北海道医療大学 経営企画部総務企画課長	鈴木 邦仁
	スウェーデンハウス株式会社 グループリーダー	中村 慧一
	医療法人社団とうべつ整形外科 看護師長	北村 佳代子
一般乗合旅客自動車運送事業者の代表	有限会社下段モータース 代表取締役	下段 寿之
一般貸切旅客自動車運送事業者の代表	山内建材工業株式会社 代表取締役	山内 孝司
一般乗合旅客自動車運送事業者の事業用運転手が所属する団体等の代表	有限会社下段モータース	工藤 亘平
地域住民及び団体の代表	当別町行政推進員連絡協議会 代表	鈴木 智久
	当別町PTA連合会 会長	安藤 頼孝
	当別町高齢者クラブ連合会 会長	高木 馥美
	当別町女性団体連絡協議会 理事	小林 万世
	当別町ボランティア連絡協議会 会長	五十嵐 廣子
	当別町商工会 事務局長	見上 由紀雄
	当別町社会福祉協議会 主幹	藤原 徹

表 1-1-3 当別町地域公共交通活性化協議会委員名簿(平成21年3月現在)

※ 北洋交易株式会社は平成21年1月にスウェーデンハウス株式会社に吸収合併され、名称変更。

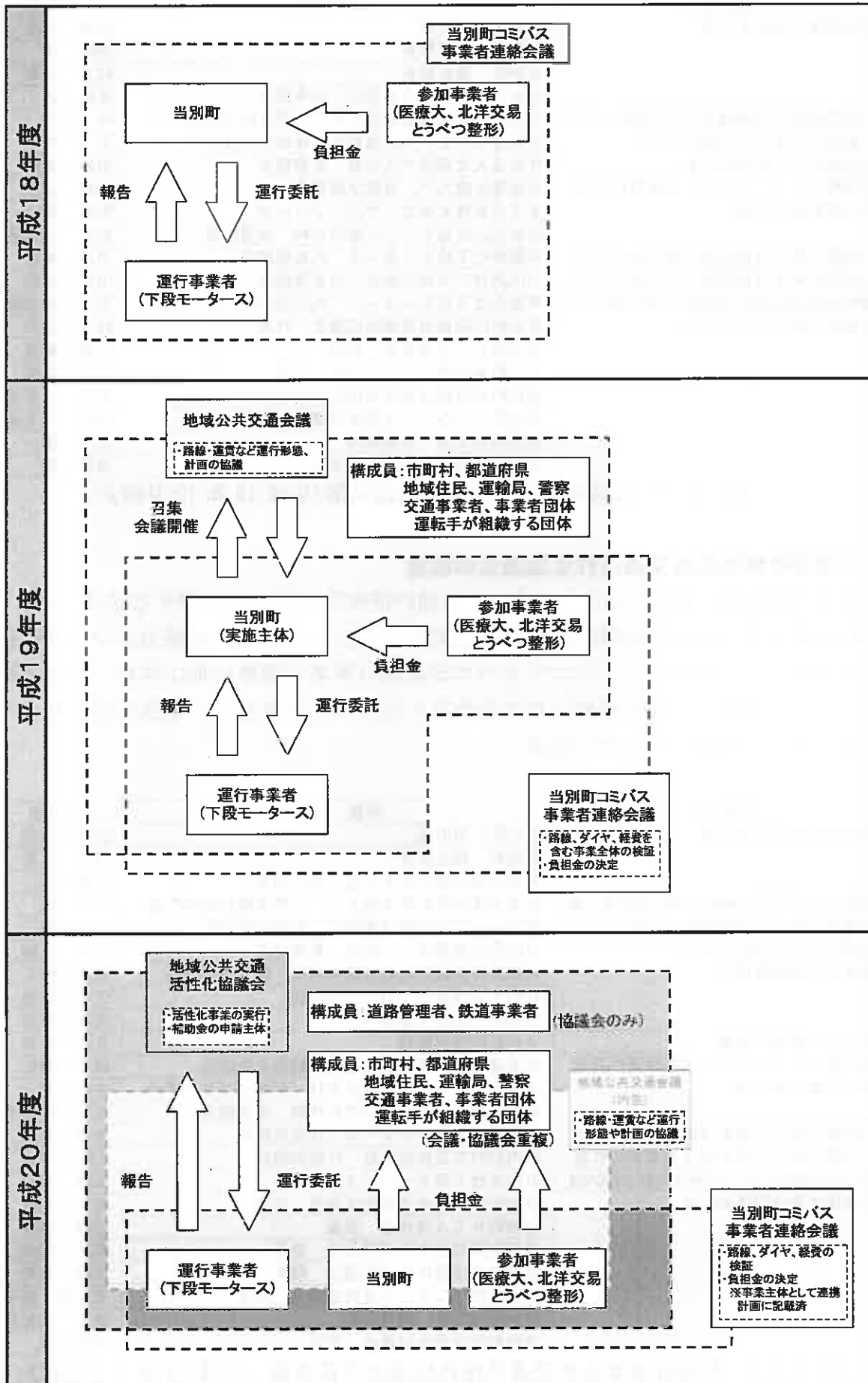


図 1-1-2 事業主体の変遷

2. 会議の開催

(1) 開催

平成20年2月1日に協議会を設置後、平成20年度末まで計6回の会議を開催した。協議会では、地域公共交通総合連携計画および平成20年度事業計画の策定を行い、定期的に事業の進捗についての報告と、各事業実施に際しての議論を行った。

また、地域公共交通会議の性質も併せ持つことから、平成21年4月1日付けダイヤ改正についての協議も本協議会で行った。

回	開催日時	主な協議内容
第1回	平成20年2月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通活性化協議会について ・公共交通活性化再生総合事業について ・地域公共交通総合連携計画（素案）について ・パブリックコメントについて
第2回	平成20年3月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの結果について ・地域公共交通総合連携計画（原案）について ・平成20年度事業計画（案）について ・平成20年度予算案について ・事業計画認定申請について ・補助金交付申請書について
第3回	平成20年5月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・当別町地域公共交通総合連携計画について ・当別町地域公共交通活性化・再生総合事業計画の認定について ・平成20年度地域公共交通活性化・再生総合事業費補助金の交付決定 ・平成19年度当別町コミュニティバス実証運行事業報告 ・平成20年度事業計画の変更について ・平成20年度予算の変更について
第4回	平成20年10月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・当別ふれあいバス平成20年度の上半期報告について ・夏季OD調査の結果報告について ・ニューズレターの発行について ・小中学生向けモビリティ・マネジメントの実施について ・利用促進ツアーの実施について ・バス待合所の設置について ・廃食油回収システムについて
第5回	平成21年1月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・当別ふれあいバス平成20年度12月までの実績報告について ・ニューズレターの発行について ・小中学生向けモビリティ・マネジメントの実施について ・廃食油回収キャンペーンの結果について ・二酸化炭素排出権取引モデル事業公募について ・冬季OD調査の結果（速報値）について ・平成21年4月1日付けダイヤ改正について ・計画事業に係る事後評価について
第6回	平成21年3月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・計画事業に係る事後評価・2次評価について ・平成20年度協議会予算執行状況について ・二酸化炭素排出権のモデル事業採択について ・平成21年度予算・事業計画について

表1-2-1 会議開催内容

(2) 予算の減額と実施事業の変更

平成20年3月に開催した第2回協議会で事業計画を定め、補助申請を行ったが、当初より交付額が減額になったことから、第3回協議会において事業計画の変更を行った。

交付額の減額を受けて、予算を1,100万円減額した。また実施事業は、バス停留所整備の延期、バス待合所設置数の減少、公共交通情報提供システムの規模減少、ラッピングバスの延期、大学生向けモビリティ・マネジメントの延期を行った。

第2部 コミュニティバス実証運行事業

1. 当別ふれあいバス実証運行事業の概要

(1) 運行の概要

平成18年度より実施していた実証運行を基に基本路線の確定を進めるため、平成19年10月に改正したダイヤを1年間継続し、データの収集を図った。また、新規利用者の発掘を目的として、平成20年4月1日より金・土曜日限定のDRT型深夜バス「SuiSui ふれバ」の運行を開始した。

料金面では、運行収入の改善を図るため、応援券（定期券）の料金を値上げしたほか、バス車内に企業広告を掲示し、広告料収入を取ることとした。

	一般	中学生・高校生	小学生・障がい者・介護人
運賃（一般路線）	200円		100円
（SuiSui ふれバ）	1,000円（応援券利用者は500円）		
回数券	2,000円（12枚綴り）		
応援券（1ヶ月）	4,000円	2,000円	
（3ヶ月）	10,000円	5,000円	
（6ヶ月）	16,000円	10,000円	

表2-1-1 利用料金一覧

系統名	運行系統	系統 キロ	運行回数		備 考
			往	復	
市街地循環線 （昇順コース）	J R石狩当別駅南口～栄町 ～当別駅南口～春日町～当別駅南口	14.5 km	4便		土曜・日曜・ 祝日 運休
市街地循環線 （降順コース）	J R石狩当別駅南口～春日町 ～当別駅南口～栄町～当別駅南口	14.5 km	4便		土曜・日曜・ 祝日 運休
西当別線	J R石狩当別駅南口～ロイズふと美工場	12.0 km	6回	6回	
あいの里線	J R石狩当別駅南口 ～医療大学あいの里キャンパス	17.5 km	8回	8回	土曜・日曜・ 祝日 運休
金沢線	J R石狩当別駅南口～北海道医療大学	4.0 km	12回	14回	土曜・日曜・ 祝日 運休
みどり野線	J R石狩当別駅南口～みどり野会館	9.0 km	3回	3回	土曜・日曜・ 祝日 運休
青山線	J R石狩当別駅南口～青山会館	15.5 km	5回	5回	
お買い物ふれバ （Aコース）	J R石狩当別駅南口～春日町 ～ラルズストア	4.0 km	2回	2回	土曜・日曜・ 祝日 運休
お買い物ふれバ （Bコース）	J R石狩当別駅南口～下川町 ～ラルズストア	4.0 km	2回	2回	土曜・日曜・ 祝日 運休
SuiSui ふれバ	J Rあいの里公園駅～区域内運行	区域内 運行	0回	1回	金曜・土曜 のみ運行

表2-1-2 運行路線一覧

※ 時刻表・路線図は参考資料「平成20年度当別町コミュニティバス実証運行事業計画」を参照。

2. 運行データの分析

(1) 全体利用者数の推移

- 総利用者数は133,820人、冬季の利用者数は平年以下の月が多い。
- 北海道医療大学が長期休暇に入る8月及び3月は利用者が減少している。
- 11月の利用者が減少しているのは平日数が少ないため。

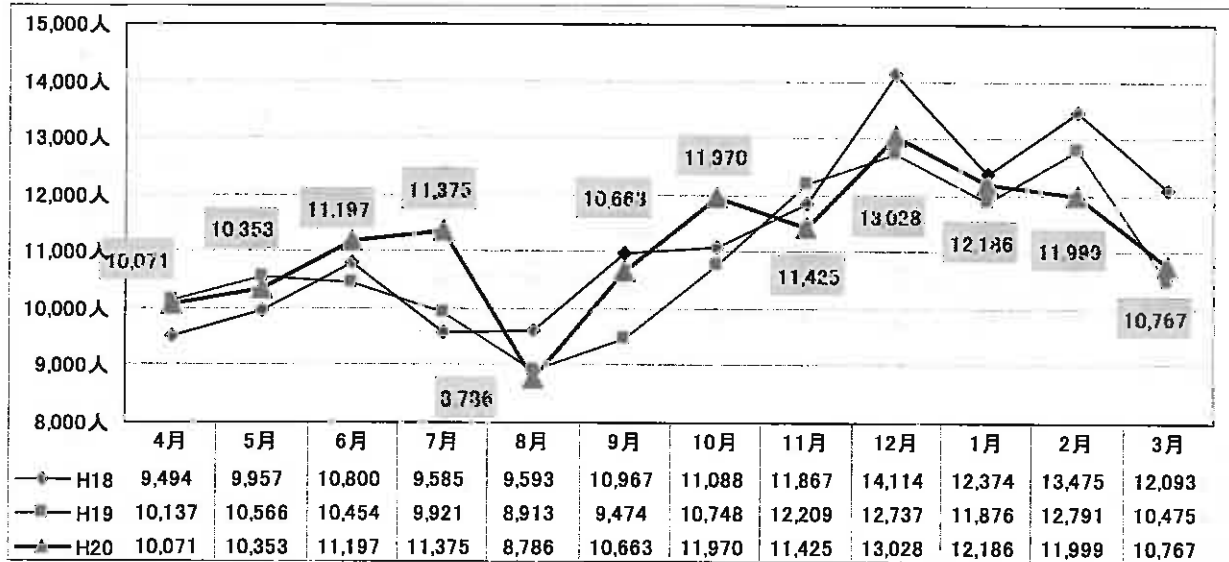


図 2-2-1 月別利用者推移

月	平 日										小計	運行日数
	循環(昇順)	循環(降順)	西当別線	あいの里線	金沢線	みどり野線	青山線	買い物(A)	買い物(B)			
4月	387人	155人	1,848人	2,978人	2,499人	288人	1,061人	30人	16人	9,262人	20日	
5月	405人	158人	1,787人	3,061人	2,868人	293人	929人	25人	3人	9,529人	21日	
6月	491人	185人	2,069人	3,192人	3,060人	320人	1,067人	38人	10人	10,432人	21日	
7月	500人	236人	1,927人	3,319人	3,135人	329人	1,102人	38人	5人	10,591人	22日	
8月	489人	187人	1,542人	3,006人	1,376人	304人	951人	74人	9人	7,938人	21日	
9月	403人	178人	1,803人	2,938人	2,916人	318人	1,085人	61人	7人	9,709人	20日	
10月	403人	207人	2,126人	3,268人	3,532人	331人	1,136人	60人	14人	11,077人	22日	
11月	430人	184人	2,103人	2,715人	3,366人	276人	1,048人	60人	7人	10,189人	18日	
12月	566人	261人	2,370人	3,221人	3,811人	361人	1,222人	83人	20人	11,915人	21日	
1月	564人	294人	2,265人	3,026人	3,593人	324人	915人	88人	17人	11,086人	19日	
2月	530人	261人	2,347人	3,181人	3,237人	374人	966人	70人	18人	10,984人	19日	
3月	546人	245人	2,126人	3,349人	1,973人	415人	1,015人	82人	13人	9,764人	21日	
計	5,714人	2,551人	24,313人	37,254人	35,366人	3,933人	12,497人	709人	139人	122,476人	245日	
平均	233人/日	104人/日	392人/日	1521人/日	1444人/日	161人/日	510人/日	29人/日	06人/日	4999人/日	—	
本数	4便/日	4便/日	12回/日	16回/日	26回/日	6回/日	10回/日	4回/日	4回/日	86回/日	—	
平均	58人/便	26人/便	83人/便	95人/便	56人/便	27人/便	51人/便	07人/便	01人/便	58人/便	—	

月	土曜・日曜・祝日			SuiSuiふれバ		合計	
	西当別線	青山線	小計	乗降車数	運行日数	乗降者数	運行日数
4月	607人	177人	784人	25人	7日	10,071人	30日
5月	673人	126人	799人	25人	8日	10,353人	31日
6月	626人	110人	736人	29人	7日	11,197人	30日
7月	619人	148人	767人	17人	7日	11,375人	31日
8月	647人	176人	823人	25人	8日	8,786人	31日
9月	727人	206人	933人	21人	7日	10,663人	30日
10月	724人	155人	879人	14人	6日	11,970人	31日
11月	948人	262人	1,210人	26人	6日	11,425人	30日
12月	902人	180人	1,082人	31人	8日	13,028人	31日
1月	879人	196人	1,075人	25人	10日	12,186人	30日
2月	802人	193人	995人	20人	7日	11,999人	28日
3月	789人	189人	978人	25人	5日	10,767人	31日
計	8,943人	2,118人	11,061人	283人	86日	133,820人	364日
平均	752人/日	178人/日	929人/日	33人/日	—	3676人/日	—
本数	24回/日	7回/日	31回/日	—	1回/日	—	—
平均	31人/便	25人/便	30人/便	32人/便	—	—	—

表 2-2-1 月別利用者数一覧

(2) 市街地循環線・お買い物ふれバの推移

- 夏季は過去2年より利用者数を上回った。
- 冬季は夏季に比べ利用者が伸びたものの、大幅な増加には至らなかった。
- 市街地循環線では昇順の第2便、降順の第3便の利用が多い。
- お買い物ふれバは全ての便で利用者が少ない。

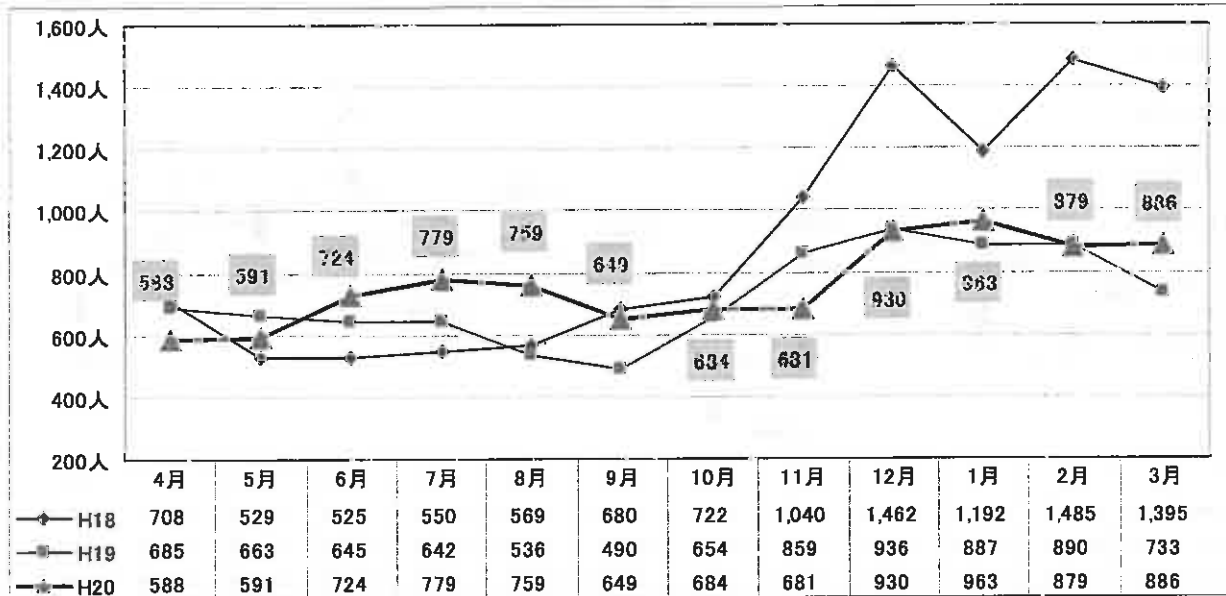


図 2-2-2 月別利用者推移

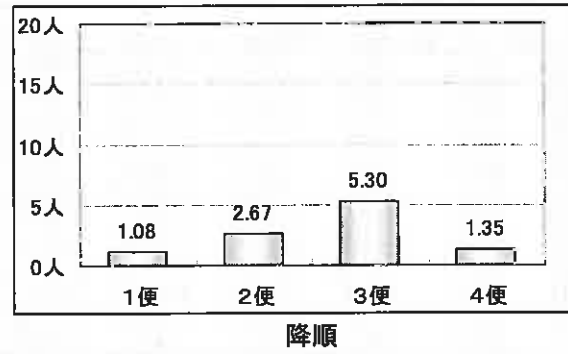
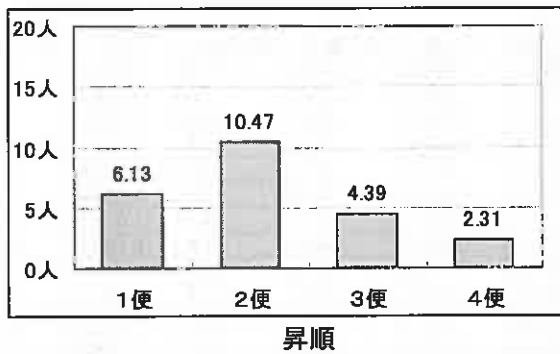


図 2-2-3 市街地循環線 1 便当たり平均利用者数

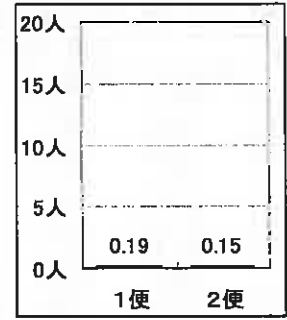
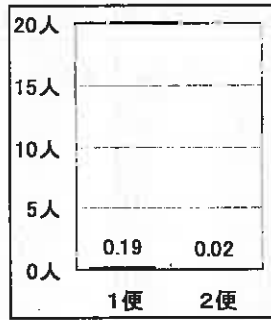
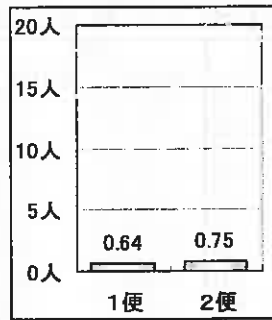
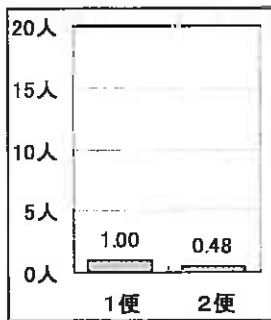


図 2-2-4 お買い物ふれバ 1 便当たり平均利用者数

(3) 金沢線の推移

- 全体を通して過去2年より利用者数を上回った。
- 長期休暇に入る8月、3月の利用者が少ない。
- 北海道医療大学行の第1便、JR当別駅南口行の第9便以降の利用者が多いのは、通学での利用者が多いため。

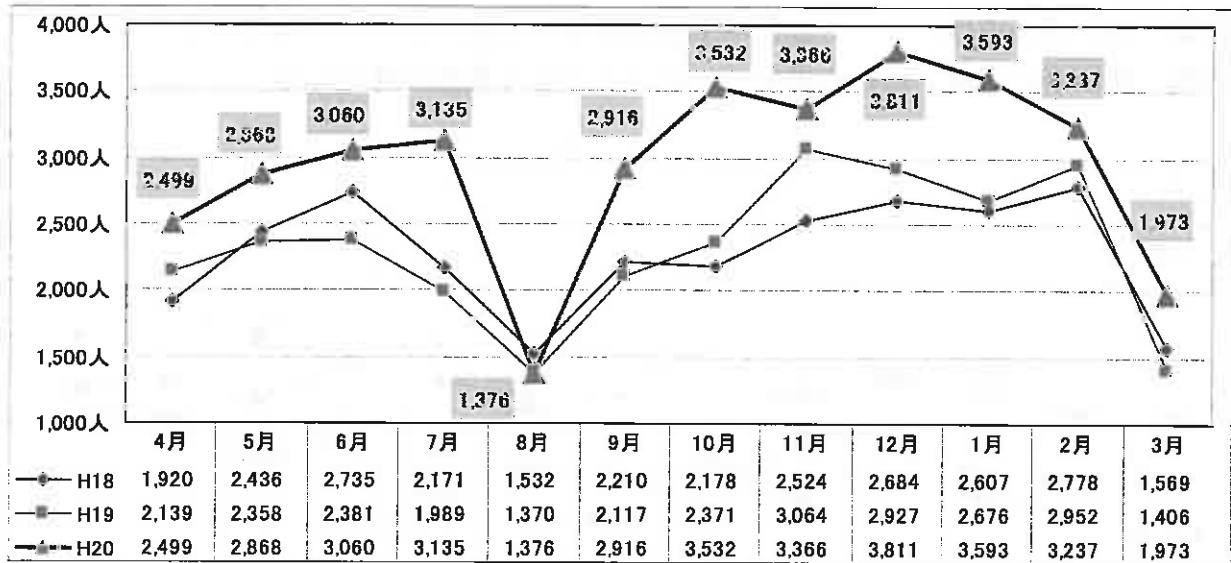
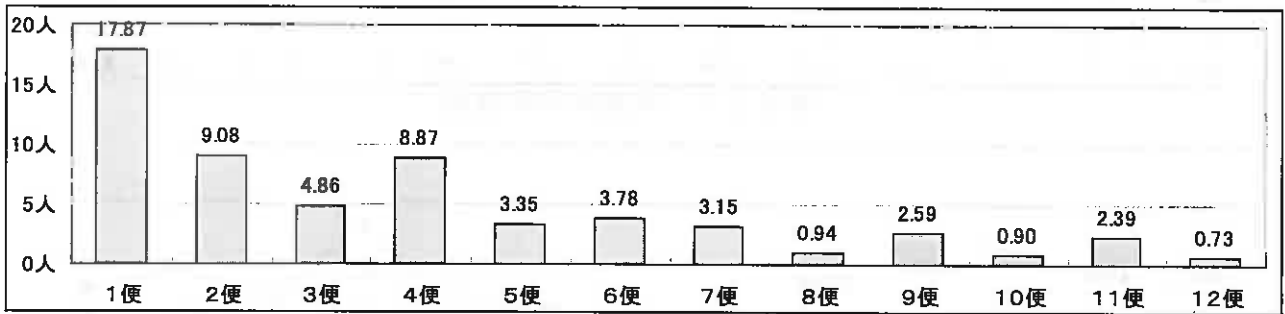
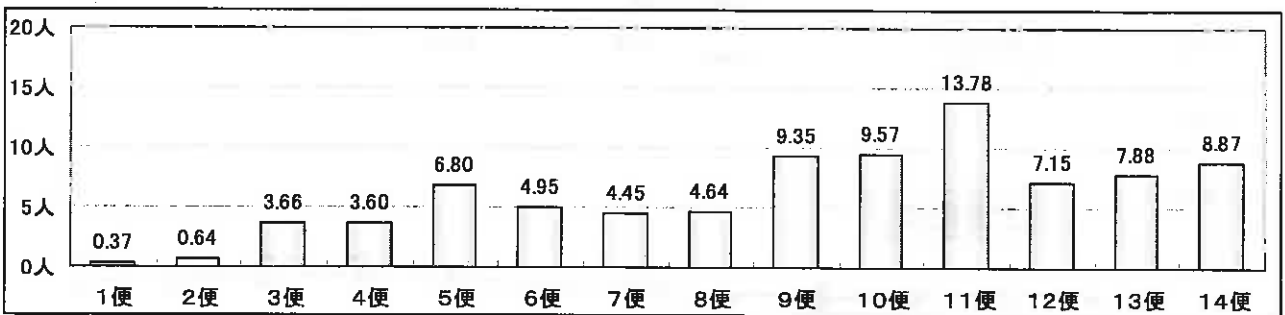


図 2-2-5 月別利用者推移



北海道医療大学行



JR当別駅南口行

図 2-2-6 1便当たり平均利用者数

(4) 西当別・あいの里線の推移

- 4月から7月までは平年並みだが、8月以降の利用者の落ち込みが著しい。土日祝日の利用者は大きく変わらないことから、平日利用者の減少が顕著である。
- 11月の利用者が減少しているのは、平日数が少ないため。
- 平日の太美駅・ロイズ・あいの里キャンパス行のうち、第1便の利用が多いのは、通勤通学者が太美駅まで利用するため。
- 同第3便が多いのは、ロイズふとみ工場勤務者が通勤手段として利用するため。
- 同第4便が多いのは、あいの里キャンパスまで行く最初の便のため。

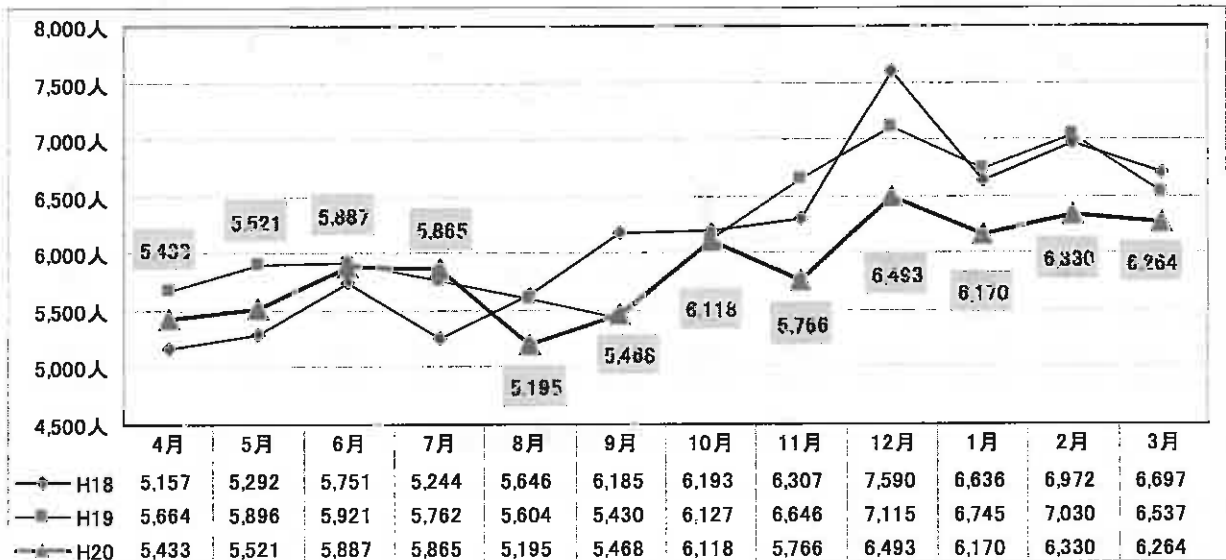


図 2-2-7 月別利用者推移

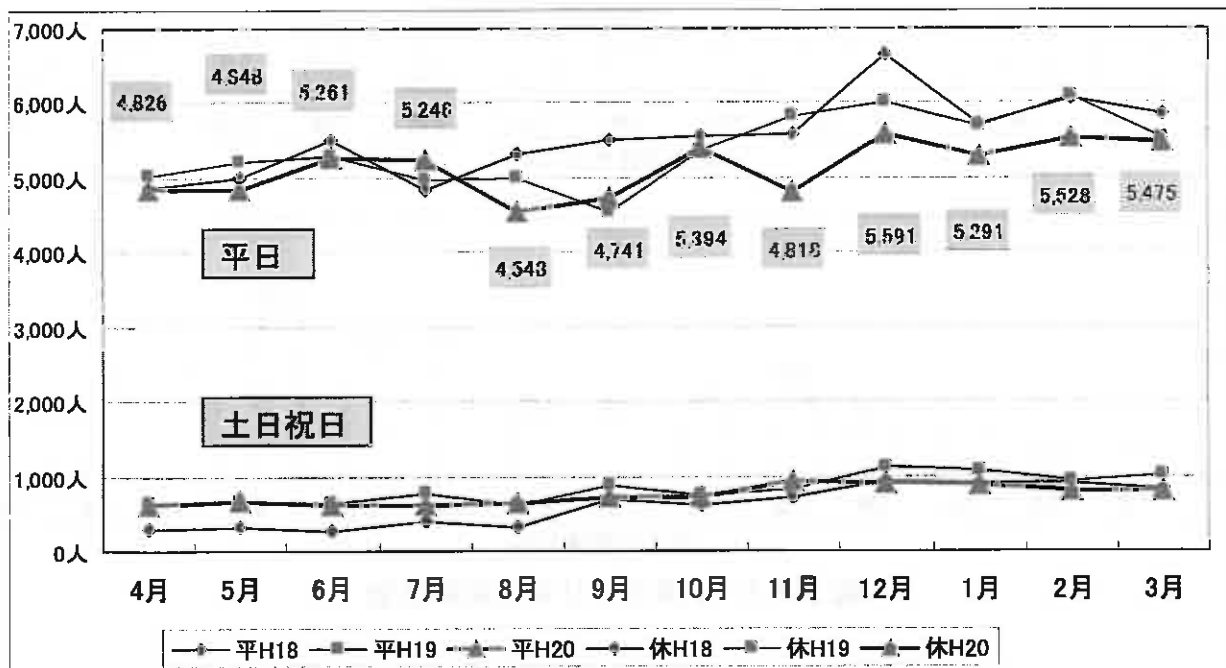
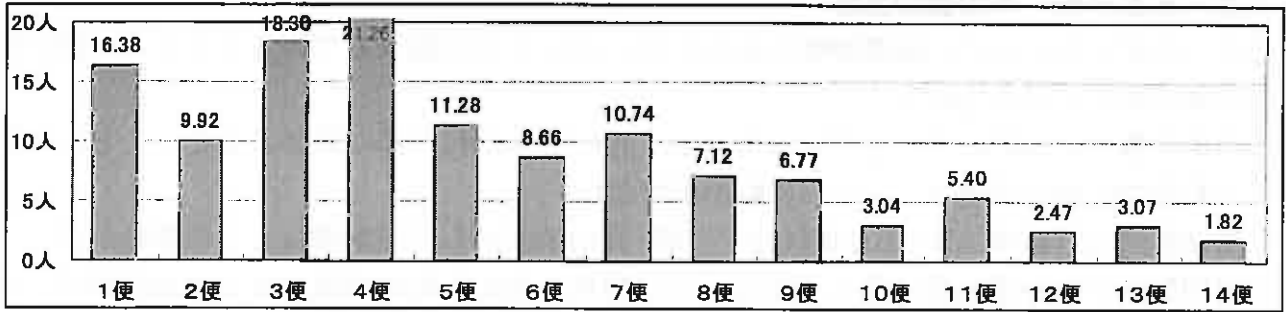
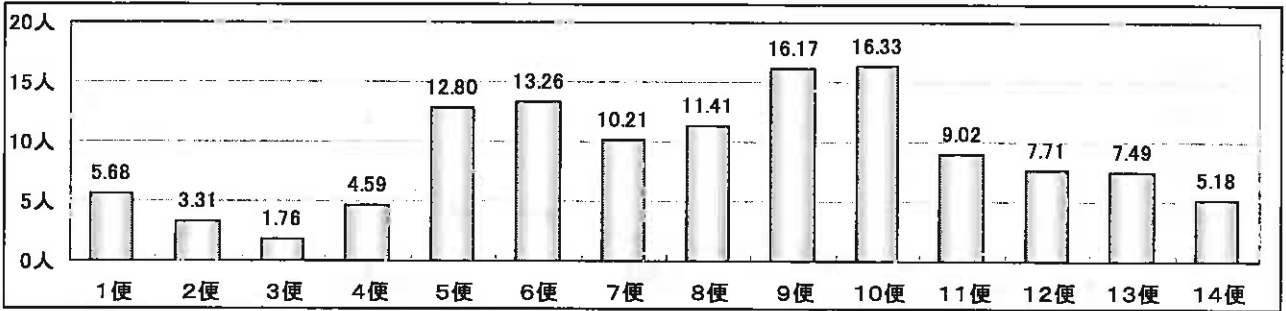


図 2-2-8 平日及び土日祝日別月別利用者推移

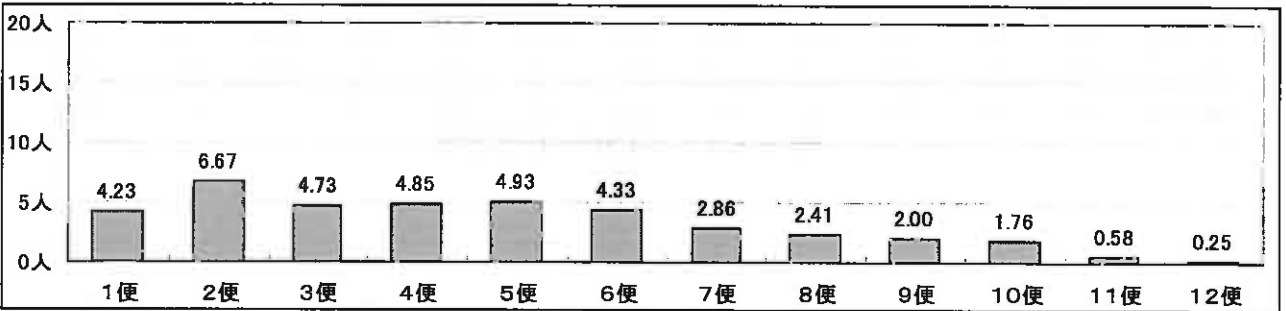


JR太美駅、ロイズふとみ工場、あいの里キャンパス行

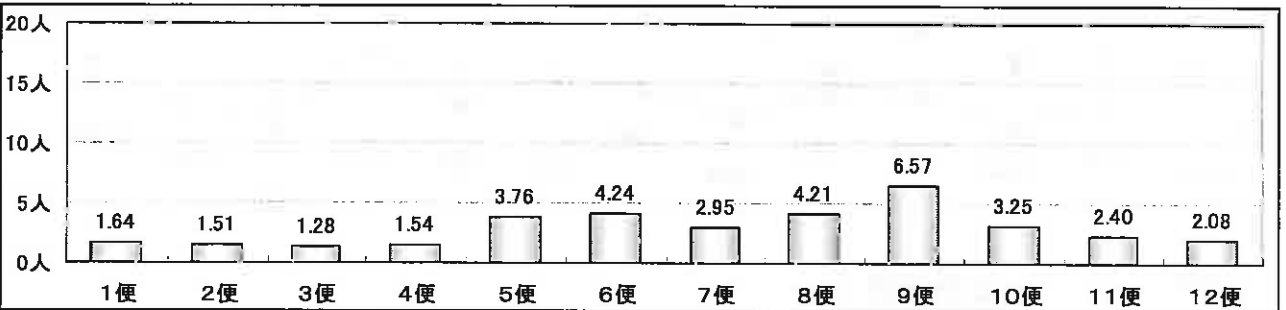


JR当別駅南口行

図 2-2-9 平日 1 便当たり平均利用者数



JR太美駅、ロイズふとみ工場行



JR当別駅南口行

図 2-2-10 土日祝日 1 便当たり平均利用者数

(5) みどり野・青山線の推移

- ゴールデンウィーク、長期休暇のある5月、8月、1月が減少していることから、通学利用者が多いと想定される。
- 利用者数は全体的に平年を下回っている。特に冬季の利用者の伸びが少ないことから、自転車など他の交通モードからの転換が少ない。
- 当別駅南口行の第1便・第2便はみどり野・青山地区から当別駅南口までの移動が多い。
- 当別駅南口行の第3便・第4便はとうべつ整形外科から町内市街地までの通院利用が多い。

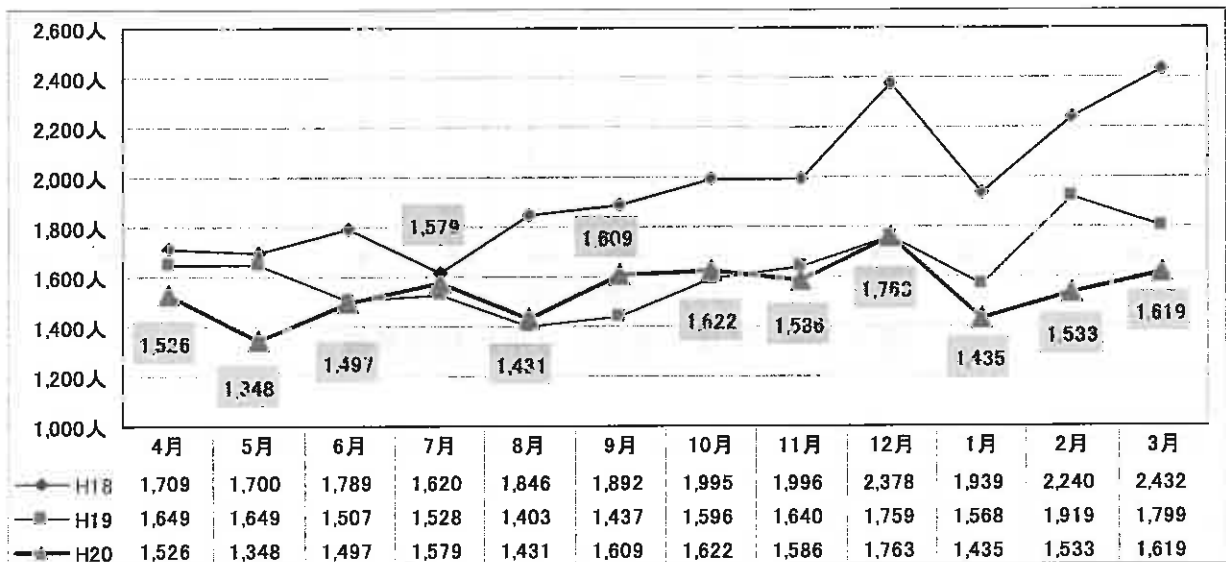


図 2-2-11 月別利用者推移

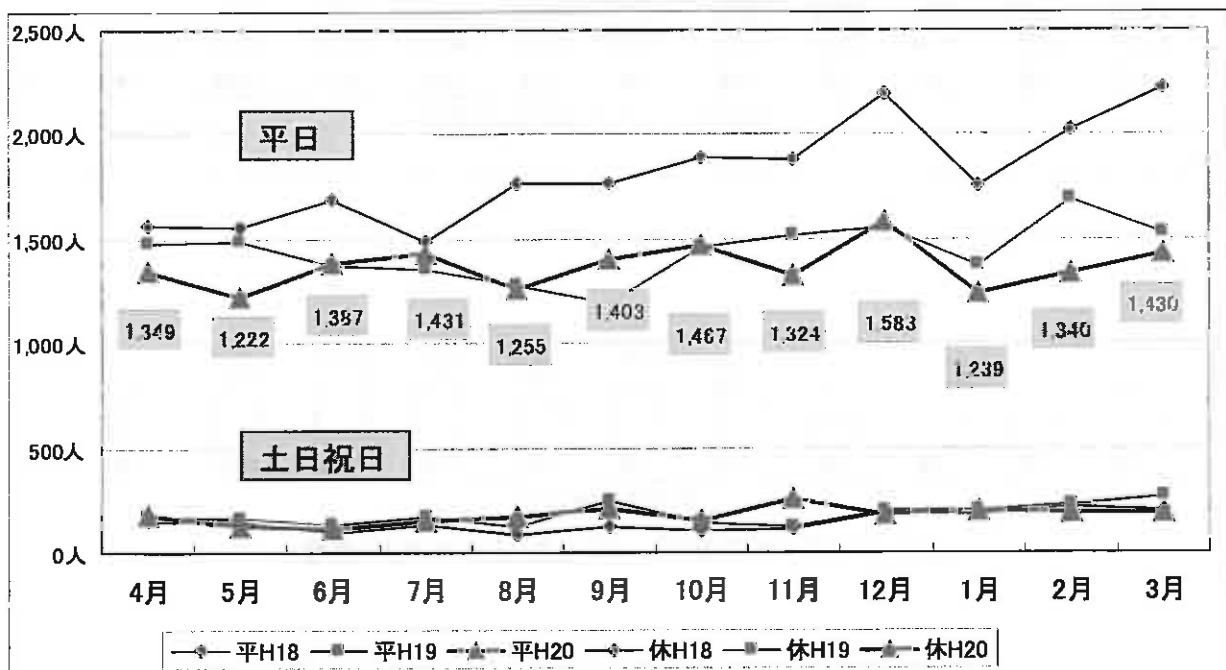
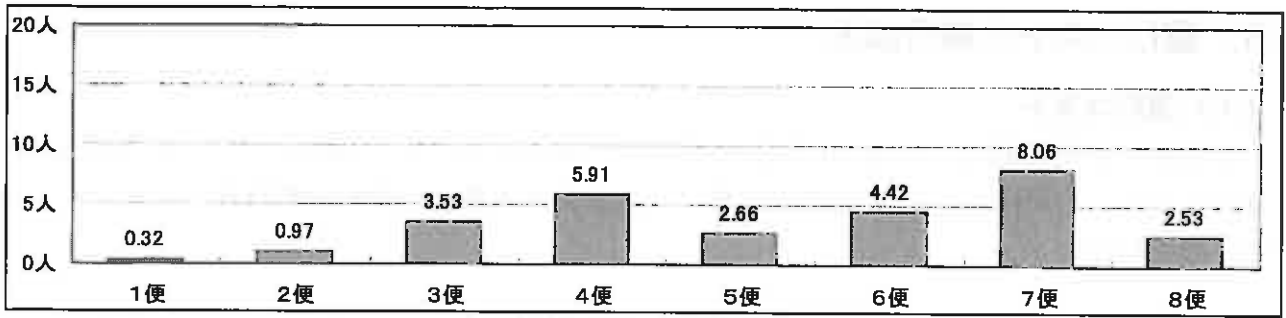
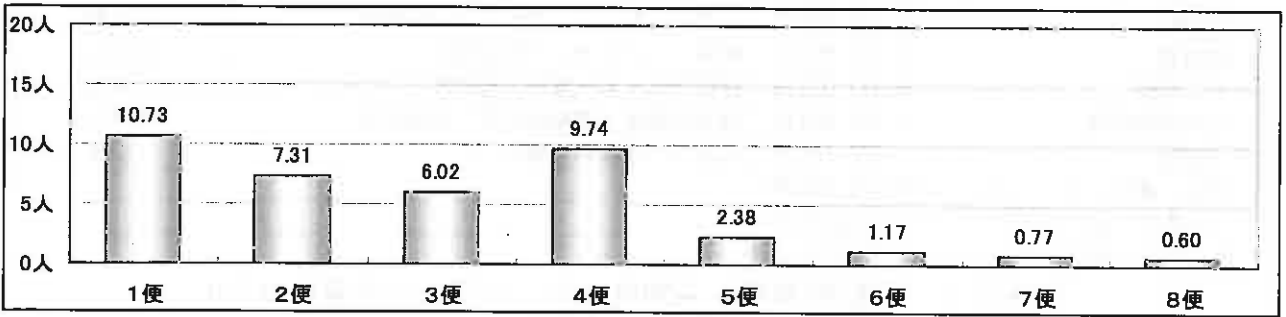


図 2-2-12 平日及び土日祝日別月別利用者推移

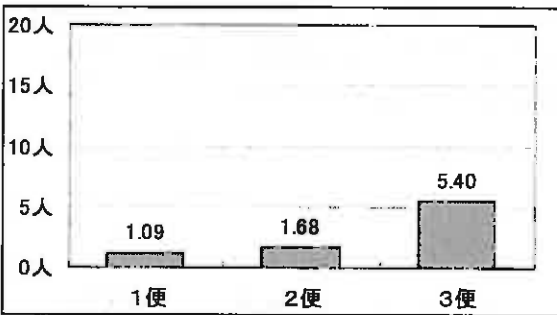


みどり野会館・青山会館行

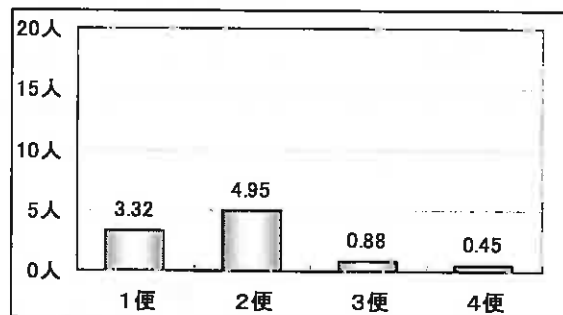


JR当別駅南口行

図 2-2-13 平日 1 便当たり平均利用者数



青山会館行



JR当別駅南口行

図 2-2-14 平日及び土日祝日別月別利用者推移

3. 運行コストと運行収入

(1) 運行コスト

実証運行事業の結果、「平成20年度当別町コミュニティバス」の運行コストは、年間5,002万円となり、その内訳は約7割が人件費、1割強が車両費、1割弱が燃料費、残りをその他で占めている。

項目	金額	備考	構成比
人件費	35,542,800円	運転手・事務員人件費	71.1%
車両費	5,768,800円	バス借上料・メンテナンス・保険料	11.5%
燃料費	4,201,250円	軽油・バイオディーゼル燃料	8.4%
バス停費	1,479,000円	停留所借上料・維持管理費等	3.0%
その他諸経費	2,354,650円	運行管理費・定期券作成・清掃費等	4.7%
消費税	670,185円	人件費・保険料を除く	1.3%
支出(運行コスト)計	50,016,685円		
1kmあたり運行コスト	181.3円/km		
1人あたり運行コスト	373.7円/人		

表2-3-1 平成20年度 当別町コミュニティバス運行コスト

(2) 運行収入等

運行収入は、現金による運賃収入と全路線乗り放題の応援券(定期券)、回数券の販売収入がある。応援券については、町内に7ヶ所の販売所を設け、販売枚数1枚につき100円の手数料を販売所に対して支払い、その差額が応援券収入となっている。

また、平成20年度からは、バス車内に広告を掲示し、その広告収入も事業収入へ計上することとしている。

	運行収入				広告収入	収入合計
	応援券販売額	運賃収入	回数券販売額	運行収入合計		
H20.4月	1,266,900円	370,600円	244,000円	1,881,500円	29,000円	1,910,500円
5月	164,600円	334,200円	136,000円	634,800円	29,000円	663,800円
6月	94,100円	361,200円	150,000円	605,300円	29,000円	634,300円
7月	111,000円	366,300円	190,000円	667,300円	29,000円	696,300円
8月	144,800円	369,800円	206,000円	720,600円	29,000円	749,600円
9月	716,000円	320,100円	210,000円	1,246,100円	29,000円	1,275,100円
10月	459,000円	339,200円	192,000円	990,200円	29,000円	1,019,200円
11月	256,200円	315,900円	168,000円	740,100円	29,000円	769,100円
12月	150,400円	392,500円	214,000円	756,900円	29,000円	785,900円
H21.1月	210,300円	385,200円	190,000円	785,500円	29,000円	814,500円
2月	109,200円	368,700円	208,000円	685,900円	29,000円	714,900円
3月	48,500円	393,800円	194,000円	636,300円	29,000円	665,300円
合計	3,731,000円	4,317,500円	2,302,000円	10,350,500円	348,000円	10,698,500円

表2-3-2 収入一覧

販売店名	所在	電話番号	取扱時間
当別町商工会	錦町 1248	23-2447	9:00~17:00 (平日のみ)
当別赤れんが6号(ふれあい倉庫)	錦町 294-4	27-6600	9:00~18:00 (月曜定休)
当別町社会福祉協議会(高齢者クラブ連合会事務局)	西町 32-2 総合保健福祉センター内	22-2301	9:00~17:00 (平日のみ)
(有)下段モータース	樺戸町 1055 番地	23-2630	9:00~18:00
スウェーデンヒルズ管理センター(スウェーデンハウス(株))	スウェーデンヒルズ V4-4-4	26-2348	9:00~18:00
(株)小島商店	太美町 1484	26-2410	8:00~21:00
とうべつ整形外科	六軒町 72-4	25-5040	月~金 9:00~18:00 土曜日 9:00~12:00

表 2-3-3 応援券販売箇所一覧

	一 般				小中学生・高校生・障がい者・介護人				応援券 売上枚数 合計
	1ヶ月 (4,000円)	3ヶ月 (10,000円)	6ヶ月 (16,000円)	小計	1ヶ月 (2,000円)	3ヶ月 (5,000円)	6ヶ月 (8,000円)	小計	
4月	24枚	6枚	50枚	80枚	8枚	12枚	31枚	51枚	131枚
5月	15枚	2枚	3枚	20枚	11枚	2枚	1枚	14枚	34枚
6月	8枚	1枚	2枚	11枚	7枚	0枚	1枚	8枚	19枚
7月	14枚	1枚	0枚	15枚	10枚	4枚	1枚	15枚	30枚
8月	13枚	5枚	0枚	18枚	9枚	4枚	1枚	14枚	32枚
9月	11枚	4枚	32枚	47枚	9枚	1枚	13枚	23枚	70枚
10月	10枚	3枚	11枚	24枚	9枚	5枚	22枚	36枚	60枚
11月	12枚	14枚	1枚	27枚	17枚	3枚	1枚	21枚	48枚
12月	11枚	6枚	0枚	17枚	15枚	4枚	0枚	19枚	36枚
1月	14枚	9枚	0枚	23枚	17枚	7枚	0枚	24枚	47枚
2月	17枚	0枚	0枚	17枚	20枚	1枚	0枚	21枚	38枚
3月	10枚	0枚	0枚	10枚	5枚	0枚	0枚	5枚	15枚
合計	159枚	51枚	99枚	309枚	137枚	43枚	71枚	251枚	560枚

表 2-3-4 応援券販売枚数一覧

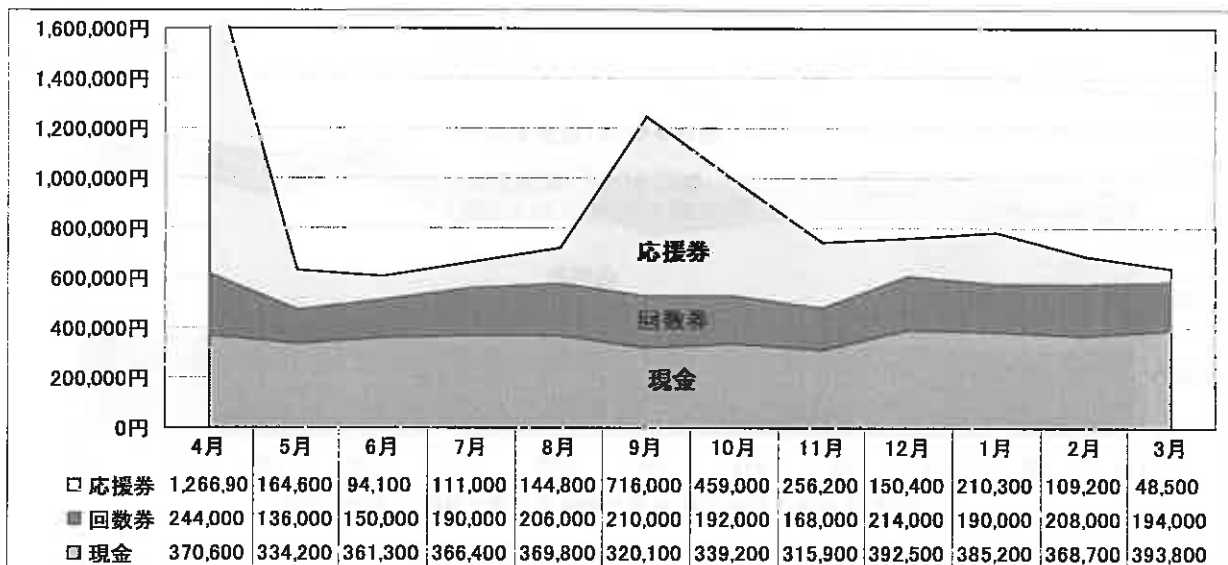


図 2-3-1 収入種別推移

(3) 無料チケット

参加事業者が独自で行っていた輸送サービスを一元化し、「官民共同による運行」による実現させるために、従来のサービスを低下させないよう一定の条件において無料で利用することができる。

参加事業者	条件	対象路線	対象者	利用方法(無料)
北海道医療大学	当別町金沢及び札幌市あいの里にある当該大学キャンパス	あいの里線 金沢線	当該大学の学生及び教職員 付属病院の患者	往路：診察券・学生証の提示 復路：無料チケットの交付
スウェーデンハウス	当別町スウェーデンヒルズ内限定の乗降	西当別線 あいの里線	一般住民	スウェーデンヒルズ内限定の乗降である事を運転手に伝える
とうべつ整形外科	当別町六軒町にある当該病院の利用	市街地循環線 みどり野線 青山線	当該病院の患者	往路：診察券の提示 復路：無料チケットの交付

表 2-3-5 従来のサービスによる無料対象者一覧

参加事業者	無料チケット使用枚数	平成19年度使用枚数	増減	備考
北海道医療大学(患者)	3,763枚	3,486枚	277枚	
北海道医療大学(学生)	19,230枚	14,791枚	4,439枚	
とうべつ整形外科(患者)	3,687枚	3,086枚	601枚	
合計	26,680枚	21,363枚	5,417枚	

表 2-3-6 無料チケット使用枚数

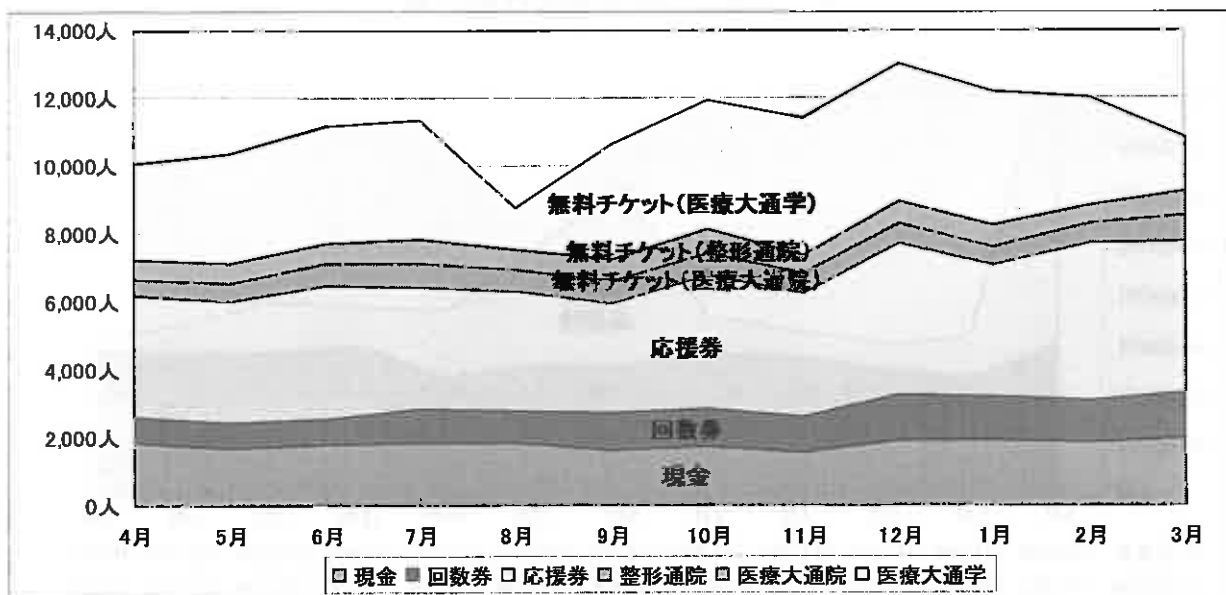


図 2-3-2 支払種別毎利用者推移

4. SuiSuiふれバの実績

(1) 概要

平成20年度より開始した金曜・土曜日限定の予約型深夜バス「SuiSuiふれバ」は、JR学園都市線の最終便が当別町まで運行しない交通空白時間帯を埋めるべく、試験運行を行った。

実施概要

- 利用料金 1,000円（応援券利用者は500円）
- 運行曜日 金曜日または土曜日とし、予約の無い場合は運休。
- 降車場所 当別町内のふれあいバス停留所（ただし青山地区は除く）
- 予約方法 利用日2週間前から当日20時まで下段モータースに氏名・住所・電話番号・降車停留所伝えてを予約。
20時以降のキャンセル又は連絡なしで乗車しない場合は、キャンセル料として利用料金と同額を請求。
予約が無い場合でも乗車を可能としているが、満席になった場合は予約のない人は全員利用できない。

(2) 利用状況

利用の実績は、金曜日の平均利用者数が3.75人、土曜日の平均利用者数が2.81人と、金曜日の利用者が多かった。1回の運行DR T型の運行の利点を生かし、予約のない日は運行しないこととしたため、2割弱の運休があった。1人のみの利用も16日あった。

	運行回数			乗車数			収入	
	運行	うち 1名利用	運休	総数	平均	最大	総額	平均
金曜日	44回	4回	8回	165人	3.75人	10人	158,500円	3,602円
土曜日	42回	12回	10回	118人	2.81人	9人	112,500円	2,679円
合計	86回	16回	18回	283人	3.29人	10人	271,000円	3,151円

表2-4-1 SuiSuiふれバ利用状況

(3) 今後の適応性

運行コストの面で言えば、SuiSuiふれバのみを黒字にするために必要な乗車数は6人程度であり、平成20年度の状況では採算ラインに乗らない。

利用者の属性は女性が多く、また同一人物が何度も利用するリピーターが多い。平成20年度では利用者へのPRが不足からSuiSuiふれバの認知度が低いので、今後も引き続きPR続け、新規利用者の拡大を図り、SuiSuiふれバ単体での黒字を目指す。

第3部 設備の充実

1. 待合所の設置

当別ふれあいバスの待合環境を整備するため、停留所に待合所を整備した。整備にあたっては、地域にバスに対して主体的関与を持ってもらうために、整備後の維持・管理を町内会や地域にお願いするよう、設置希望を募った。

公募の手法

- 1 平成20年7月の行政推進会議にて説明
- 2 9月発行のとうべつバス通信にて周知

設置の条件

- 1 設置にかかる費用及び大規模な修繕は協議会が負担
- 2 維持管理や照明等の電気料金負担は町内会又は停留所付近の地域・企業が行う
- 3 建物設置の底地については無償貸与いただけること

以上の条件に合致した停留所として、「田西会館」と「ヒルズ管理センター」の2箇所に設置した。デザインは、既にスウェーデンヒルズ内に設置されている待合所と同様のスウェーデンハウス風として統一感を図った。



写真3-1-1 「田西会館」停留所



写真3-1-2 「ヒルズ管理センター」停留所

2. 車内アナウンスシステムの整備

当別ふれあいバスでは停留所の案内を運転手の肉声にて行っていた。運転手によって案内に差が生じること、運転手への負担が大きいことから、運転席のスイッチと連動して停留所の音声案内と、音声と連動して車内に設置したモニターで停留所の案内及びその他情報提供を行えるシステムを導入した。

設置にあたっては、音声・映像データの作成を事務局で行うことで、ランニングコストを抑えるよう配慮した。事務局管理の利点を生かし、データの更新頻度を上げて車内での情報発信を活発に行うことで、利用者の利便性向上とバスの付加価値を高める。

設置概要

機材設置	運転席手元に操作スイッチを設置、音声映像制御装置は運転席付近に設置 モニター設置は立乗タイプは運転席後ろ、マイクロタイプは車内前方
更新作業	データの作成は事務局が行う 音声データについても事務局で収集、住民の音声をバスに流す
導入日程	平成 21 年 3 月設置完了、音声のみの試験運行 平成 21 年 4 月より本格稼働 当初は広告等のデータは無いので、バスに関する情報等を提供

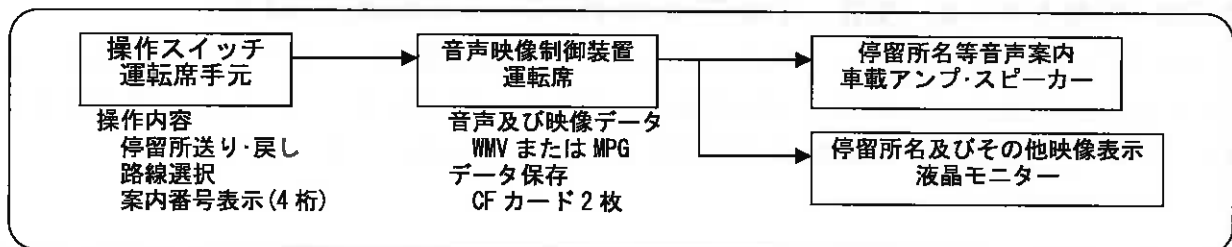


図 3-2-1 音声映像案内システム概要



写真 3-2-1 手元スイッチ



写真 3-2-2 表示モニター（停留所案内）

1. 小中学生向けモビリティ・マネジメントの実施

(1) 事業の計画

小中学生に対して、社会学習の一環として、公共交通と環境教育を組み合わせた授業を実施する。3ヵ年の活性化・再生総合事業の初年度に当たる20年度は、学校に対する説明、授業の試行実施、授業の教材の整備を行った。

教育委員会の協力を得て、平成20年9月の校長会において授業実施の依頼を行い、その後小学校3校と中学校3校を回り、授業内容や使用済みてんぷら油の回収について説明を行ったところ、当別小学校、西当別小学校、弁華別中学校の3校で実施することができた。

(2) 授業の実施

町内小中学校において3校4回の授業を行った。地球温暖化の視点から公共交通の重要性を説く「かしこいクルマの使い方」、当別ふれあいバスで使用しているバイオディーゼル燃料を題材とした「てんぷら油でバスが走る」の2つを中心に授業を組み立てた。

■当別小学校5年1組（実施：平成20年10月2日 5-6時間目 31名）

校長会での説明と前後して、町内小学校の社会科授業研究の一環として依頼されていたこともあり、児童のほか町内小学校教諭が見学した。研究授業としたため、事前授業を実施していたこともあり、授業内での質問発表では活発な意見が多かった。



写真 4-1-1 当別小学校授業風景

■西当別小学校5年生（実施：平成20年10月28日 5-6時間目 90名）

3クラス合同での授業を実施。前半は全員で「かしこいクルマの使い方」、「てんぷら油でバスが走る」の授業。後半は3班に分けて、バスの乗車体験・ふれあいバスの説明・バイオディーゼル燃料のサンプル体験を行った。

西当別小学校は、元々バスが走っていた地域であったため、継続してふれあいバスを利用している児童が多かった。



写真 4-1-2 西当別小学校授業風景

■当別小学校5年生（実施：平成20年10月29日 3-4時間目 94名）

3クラス合同での授業を実施。前半と後半で大きく2組に分けて、一方では「かしこいクルマの使い方」、「てんぷら油でバスが走る」の授業。もう1班はバスの乗車体験・ふれあいバスの説明・バイオディーゼル燃料のサンプル体験を行った。



写真 4-1-3 当別小学校授業風景

■ 弁華別中学校（実施：平成21年1月15日 3時間目 26名）

3学年合同の授業を実施。1時間目のみの授業と冬季のためバスの乗車体験を省略し、「かしこいクルマの使い方」と「てんぷら油でバスが走る」の授業を実施。中学生向けに地球温暖化の影響や二酸化炭素排出に関して小学生より高度な内容に変更。また、今後の参考とするため、授業終了後にアンケートを実施した。



写真 4-1-4 弁華別中学校授業風景

※ 授業で使用したスライドは参考資料「小中学生向けモビリティ・マネジメント使用スライド」を、弁華別中学校でのアンケート結果は「弁華別中学校授業実施後アンケート調査の結果」を参照。

(3) コミュニケーションツールの作成

今年度はスライドを用いた授業と、バスを持ち込んでの授業を中心に実施したが、次年度以降はコミュニケーションを中心とした授業も行うため、各小学校の先生にも意見をもらいながら「交通すごろく」と「交通日記」整備した。

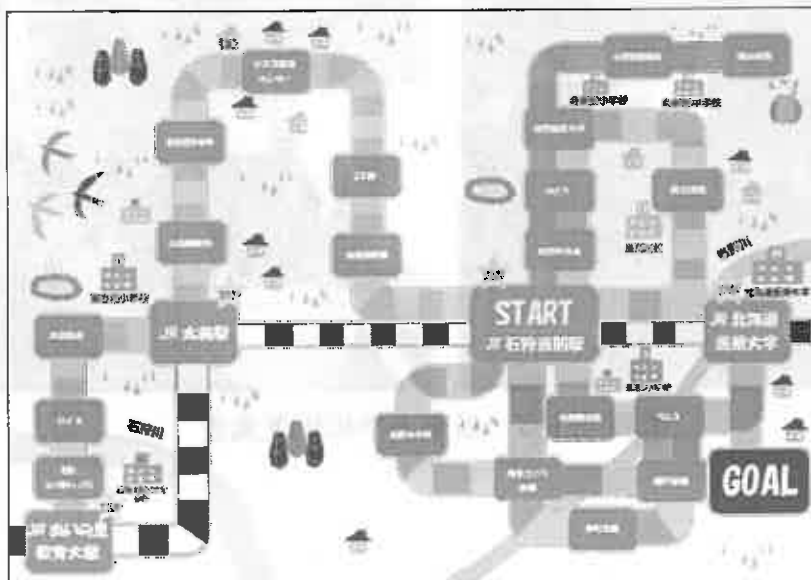


図 4-1-1 交通すごろく

2. ニュースレターの発行・交通マップの作成

(1) ニュースレターの発行

住民に対し公共交通への理解を深めてもらうことを目的として、事業の状況や公共交通に関する情報を定期的に発信した。本年度は7回発行し、ふれあいバスの情報、事業の内容を掲載したほか、「かしこいクルマの使い方」として環境面や経済・事故などの面からも公共交通の重要性を説き、自発的な公共交通への行動変容を促した。

また、11月から実施した廃食油回収キャンペーンと連動して、バイオディーゼル燃料に関する特集を組み、事業の効果的に実施する為のツールとしても活用した。

号数	発行月	掲載内容	仕様
第1号	8月	-概要（公募事業に認定・BDF運行・協議会設置） -路線図・運行概要	A4両面
第2号	9月	-バスツアー募集、バス待合所設置候補募集 -『かしこいクルマの使い方』→地球温暖化と交通手段によるCO2排出量の差異	A4両面
第3号	10月	-OD調査結果（夏季実績） -『かしこいクルマの使い方』→費用の話、事故と消費カロリーの話	A4両面
第4号	11月	-バイオディーゼル燃料の特集（メリット・製造方法とメカニズム・Q&A） -使用済みてんぷら油の回収に関する協力依頼（回収場所・方法のお知らせ） -小学校での授業（10/2実施）報告 -下段社長のインタビュー記事 -第4回協議会開催報告 -バスツアー報告、応援券の有効期限について	A3両面
第5号	12月	-上半期実績報告 -使用済みてんぷら油の回収に関して（回収場所追加、回収ボトル配布開始） -小学校での授業（10/28、10/29実施）報告 -アンケート協力依頼、年末年始運行について	A4両面
第6号	2月	-OD調査結果（冬季実績、夏季と冬季の比較） -中学校での授業（1/15実施）報告 -オフセットクレジット創出モデル事業の認定について -第5回協議会開催報告	A4両面
第7号	3月	-平成21年4月1日ダイヤ改正について -使用済みてんぷら油の回収について -バスマップの配布について	A4両面

表4-2-1 ニュースレター発行内容一覧

(2) バスマップの作成

平成21年4月1日付けのダイヤ改正に合わせて、新ダイヤの周知を図るとともに、ふれあいバスの認知度を再度高めるために、当別ふれあいバスを中心としたバスマップを作成した。当別ふれあいバスの路線図・時刻表・料金体系などを掲載するほか、SuiSuiふれバの利用方法、使用済みてんぷら油の回収の情報、当江線の時刻表を掲載した。

また、A2両面カラーで作成し、8つ折でA5サイズとすることで、持ち運びやすい大きさとしたほか、書き込みしやすい普通紙による印刷とした。

※ ニュースレター・バスマップの内容は参考資料「ニュースレター（第1号～第7号）」、「バスマップ」を参照。

3. 使用済みてんぷら油回収システムの検証

(1) 回収システムの構築

当別ふれあいバスでは、使用済みてんぷら油を精製した「バイオディーゼル燃料」を燃料として使用している。原料となる使用済みてんぷら油は、運行事業者である下段モーターが町内外の事業者から回収しているが、一般住民からの回収量は全体の2%（平成19年度）と極めて低い。一般住民からの回収を増やすことで、運行経費の抑制と環境にやさしいバス運行、また住民に対する環境への意識付けを行うことで、間接的に公共交通への関心を高める為に、回収システムを構築した。

システムの構築に当たっては、平成19年度実績で400リットルであった一般家庭からの回収量を、9,000リットルまで増やすことを目標と定めた。これにより、町内企業及び町内一般家庭からの回収分でふれあいバスで使用する使用済みてんぷら油を賄うことができ、町内で排出された使用済みてんぷら油で町内を巡るバスを走らせる、循環型のコミュニティバスを目指した。

回収方法

- 1 使用済みてんぷら油を家庭のペットボトルなどの容器、または配布の回収専用容器に入れる。
- 2 町内の回収拠点またはバス車内に容器のまま持ち込む。
- 3 バス車内では、バスを利用しない人でもバス停留所で回収を行う。

回収場所	住所	備考
下段モーター	当別町樺戸町 1055-22	システム構築以前より回収実施
当別町役場環境生活課	当別町白樺町 58-9	システム構築以前より回収実施
当別熱源	当別町末広 380	システム構築以前より回収実施
フレッティ当別駅前店	当別町園生 55	平成20年12月1日より回収開始
小島商店	当別町太美町 1184-4	平成20年12月1日より回収開始
山田産商	当別町錦町 1091	平成20年12月1日より回収開始
ラルズストア当別店	当別町樺戸町 106	平成21年3月1日より回収開始

表 4-3-1 回収拠点一覧

(2) 回収システムの構築

方法1：住民の環境配慮意識の向上と廃食油回収協力に向けた広報の実施

① ニュースレターによる広報の実施

ニュースレター第4号(平成20年11月発行)にバイオディーゼル燃料に関する特集を組み、その後の第5号、第7号に回収ボトルの配布や回収拠点の追加などの記事を載せ、周知を図った。

② ポスターの作成

回収キャンペーンを行った11月から12月までの期間用のポスターを駅や公共施設などに掲示し、キャンペーンの周知を図った。

方法2：使用済みてんぷら油回収協力者へのインセンティブ（お礼）と宣伝材料

① 住民回収に対するインセンティブ

11月から12月のキャンペーン期間中に、使用済みてんぷら油回収に協力いただいた住民に、油 500ml に対してふれあいバス回数券を配布した。回収に協力いただくきっかけと、バス利用者の発掘を目的とした。

月	配布枚数	利用枚数	利用割合
平成20年11月	期間中発券枚数 764枚	29枚	/
平成20年12月		116枚	
平成21年1月	キャンペーン終了 発券なし	85枚	
平成21年2月		69枚	
平成21年3月		56枚	
合計	764枚	355枚	

表 4-3-2 回数券配布枚数及び使用枚数集計表

② 専用回収容器の配布

回収にあたっては、容器に入れたまま回収拠点に持ってきてもらう方法としたが、一般的なペットボトルは口が小さくててんぷら油を保存するのに不便との声があったことから、広口の専用容器を用意し回収拠点で配布した。回収の宣伝効果を狙うほか、ペットボトルであれば廃棄物として処分されるものを、専用の回収容器を使用し、洗浄してリユースすることで、より環境に配慮した取り組みとした。



図 4-3-1 廃食用油回収キャンペーンポスター

写真 4-3-1 回収専用ボトル

方法3：回収場所の創出

システム構築以前は3箇所の回収場所を、年度末までに7箇所まで増やした。回収場所に対しては、委託や謝礼などによる金銭を発生させず、環境に対する配慮から無料での協力をお願いした。また、回収拠点のうち、人の出入りの多いフレッティ当別駅前店とラルズストア当別店には専用の回収棚を設置した。

今後は、小中学校向けのモビリティ・マネジメントと連動させて、小中学校での回収システムを構築する予定。



写真 4-3-2 専用回収棚（ラルズストア当別店）

(3) 回収キャンペーンの結果

町民、町内事業者の意識が高かったことから、回収拠点の創出など、システムの構築には苦慮することは無かった。キャンペーン前後では、回収量が2.6倍となり、以後の回収量も堅調であった。

月	回収拠点	下段持込	バス車内	合計	備考
平成20年4月	38.0ℓ	79.0ℓ	ℓ	117.0ℓ	キャンペーン前回収量
平成20年5月		32.0ℓ	ℓ	32.0ℓ	
平成20年6月		161.0ℓ	ℓ	161.0ℓ	
平成20年7月	35.0ℓ	42.5ℓ	ℓ	77.5ℓ	551.5ℓ
平成20年8月		65.5ℓ	ℓ	65.5ℓ	
平成20年9月		57.0ℓ	ℓ	57.0ℓ	78.8ℓ
平成20年10月		41.5ℓ	ℓ	41.5ℓ	
平成20年11月	39.0ℓ	97.7ℓ	28.5ℓ	165.2ℓ	キャンペーン後回収量
平成20年12月	115.5ℓ	129.0ℓ	45.0ℓ	289.5ℓ	
平成21年1月	81.5ℓ	43.2ℓ	15.5ℓ	140.2ℓ	1046.4ℓ
平成21年2月	67.0ℓ	96.5ℓ	2.5ℓ	166.0ℓ	
平成21年3月	80.0ℓ	201.0ℓ	4.5ℓ	285.5ℓ	
合計	456.0ℓ	785.9ℓ	96.0ℓ	1597.9ℓ	キャンペーン前後増加割合 2.66倍

表 4-3-3 回収キャンペーン前後回収量推移

4. 利用促進ツアー・車内展示会の実施

(1) 利用促進ツアーの実施

普段ふれあいバスを利用している方々へ還元するとともに、新たな利用者を発掘するため、バスツアーを企画した。本人以外のペア参加者の資格も、町内在住者及び町内に学校・勤務先がある人に限定して実施することで、バスの潜在需要の発掘を図った。また、バス利用に関するアンケートを取り、使用済みてんぷら油回収に関する設問を設けて、現在行っている事業への関連性を持たせたほか、移動中の車内でバスに関するアナウンスによる啓発を行い、関心の方向性を広げる工夫を取った。

実施概要

実施日時	平成20年10月18日(土)
行き先	仁木町くだもの狩り(14組23名参加)及び旭山動物園(15組30名参加)
参加資格	バス利用の際、運転手からスタンプ貰い5個で応募可能。応募は1人1枚。
応募期間	平成20年8月18日から平成20年9月16日



写真4-4-1 利用促進ツアー写真

※ バスツアー時のアンケート集計結果は参考資料「利用促進ツアーにおけるアンケート調査の結果」を参照。

(2) 車内展示会の開催

当別ふれあいバスの利用促進策のひとつとして、バス車内に小学生が書いた絵を展示する「車内展示会」開催した。対象を小中学生向けモビリティ・マネジメントで授業を行った当別小学校及び西当別小学校の5年生として、テーマを「環境」と「自然」に限定して実施し、授業で学んだことを描いてもらうよう実施した。

実施概要

対象	当別小学校及び西当別小学校5学年
応募期間及び総数	平成20年度冬休み期間、応募総数 24枚
展示期間	平成21年2月3日から平成21年3月31日

第5部 調査・研究

1. OD調査の実施

今後の当別ふれあいバスの路線や時刻を検討するために、夏季及び冬季において、OD調査を実施した。

現在、バスの利用者数は運行事業者の下段モーターズが独自に行っているが、一般的な性別・年齢層のデータのほか、当別ふれあいバスの多様な支払方法や、バス間での乗り継ぎの有無などの通常の運行では把握できないデータを収集することを目的とした。

実施概要

実施時期	夏季：平成20年7月28日（月）～平成20年8月2日（日） 冬季：平成20年12月1日（月）～平成20年12月7日（日）
対象路線	当別ふれあいバス市街地循環線、金沢線、みどり野・青山線 西当別・あいの里線、お買い物ふれバAコース・Bコース
調査方法	調査員がバスに乗車して乗車カウント及び聞き取り調査
調査内容	バス停留所間のOD 利用者の性別（目視による選別） 利用者の年齢層（目視による選別） 支払方法（現金・応援券・回数券・無料チケット） 乗り継ぎの有無と乗り継いだ場合の利用路線
調査結果	総括表 乗り継ぎ区間一覧表 乗客累計 流動図 ※これらのデータは別冊資料にて報告とする

※ バスOD調査の結果は参考資料「バスOD調査の実施結果」を参照。

2. 物流システム導入調査

(1) 調査概要

当別ふれあいバスにおいて、新たなサービスを提供すること及びふれあいバスを利用する機会の増加による新規利用者の発掘を目的に、物流システム導入の可能性を検討した。

調査概要

- 調査対象 家庭からの仕様済みてんぷら油の回収
 ふくろう図書館の図書返却
 北海道医療大学の資料等の輸送（バス停間による物流）
 北海道医療大学図書館の図書返却
- 調査内容 北海道医療大学・ふくろう図書館へのヒアリング
 ふくろう図書館利用者及びバス車内でのアンケート調査の実施
 利用促進ツアーでのアンケート調査の実施

検討を予定していたふれあい倉庫への農産物の搬入、及び農産物を販売・バスを利用して届ける物流については、ふれあいバス路線上に対象となる農家が少ないことと、農産物を販売する決済システムを整備しなければならないことから、今回の検討の対象外とした。

※ 物流システムのアンケート調査の内容は、参考資料「物流システム導入アンケート調査の結果」を参照

(2) 運用システムの検討

■使用済みてんぷら油の回収

使用済みてんぷら油の回収については、平成21年11月より使用済みてんぷら油回収キャンペーンを実施し、バス車内での回収を試験実施した結果、町民・町内事業者の意識が高く、継続実施の見通しが立った。

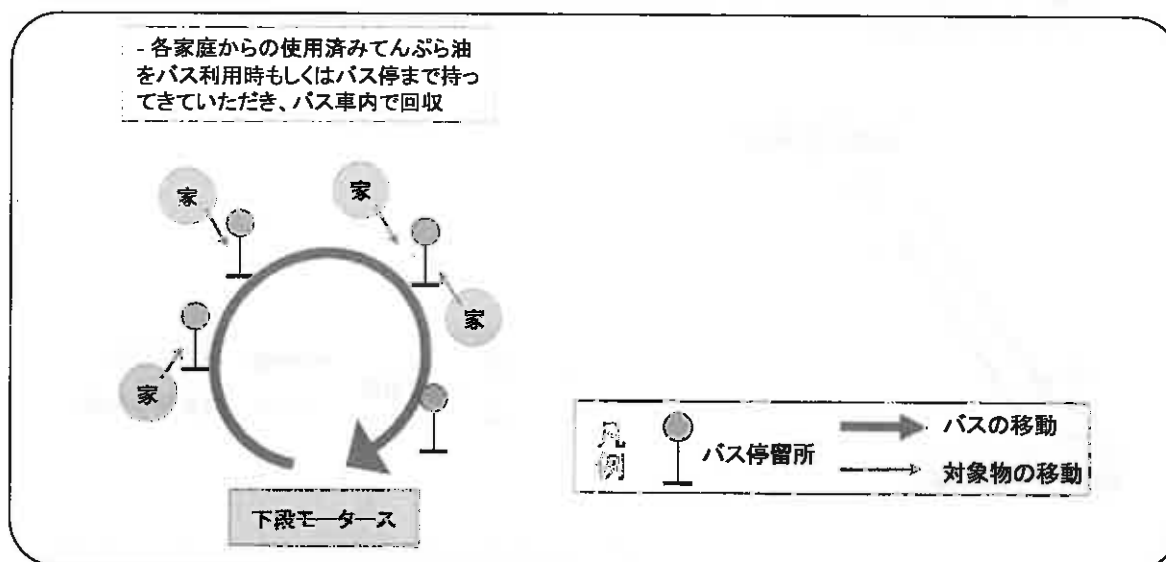


図 5-2-1 使用済みてんぷら油回収イメージ

■ 図書の返却

図書の返却に関しては、医療大学図書館では書籍のバーコード管理を実施していることから、先に返却システムに変更を加えずに実施できるふくろう図書館及び西当別コミュニティセンター図書室の書籍返却を実施し、その状況を見て医療大学図書館への導入を図る。

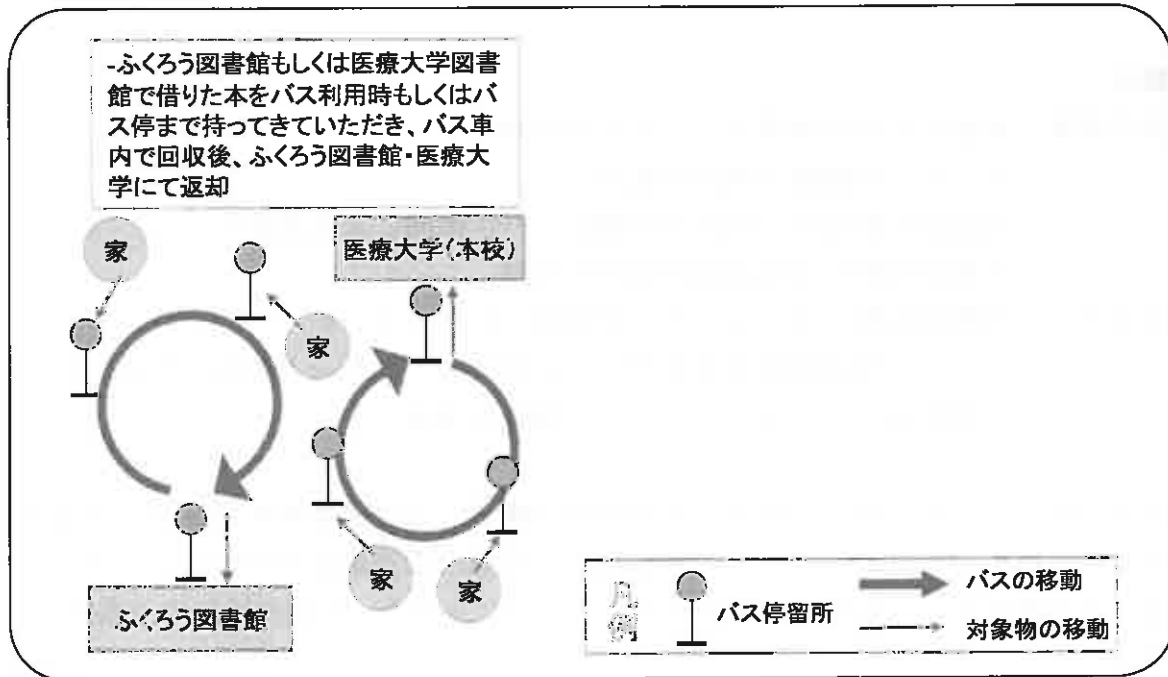


図 5-2-2 バスを利用した図書返却イメージ

■ 資料等の輸送（バス停間の物流）

医療大学間の資料の輸送については、時間帯の制約等少ないことから、比較的容易に実施が可能と思われる。今後はこの運用システムを実証し、他のバス停間でも物流が行えるよう整備を行う。

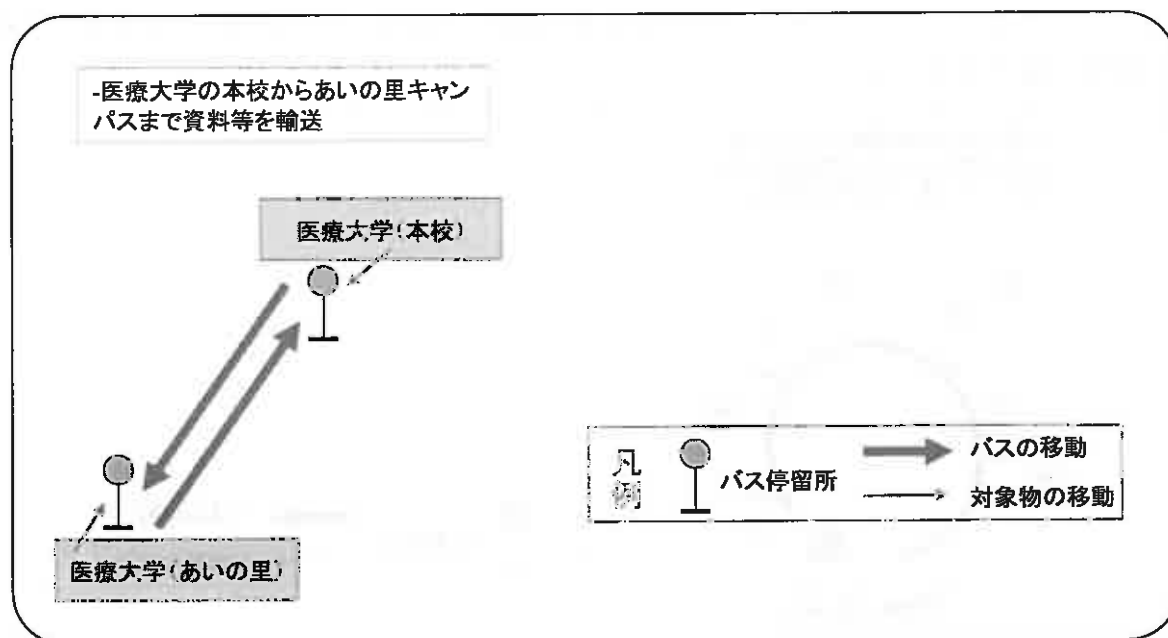


図 5-2-3 バス停間物流イメージ

1. 当別町コミュニティバス実証運行事業のまとめ

(1) 路線に関して

■市街地循環線

夏季は平年並み又はそれ以上の乗り込みがあったが、交通モードの転換による夏季から冬季にかけての利用者の増加は見られなかった。これは、利用者が日常的に利用する高齢者または通院者に限られ、冬季の徒歩や自転車からの転換層にあたる学生や社会人が、ほとんど利用していないことが原因と見られる。平成18年度は昇順・降順各6便あり、時間帯も午後をカバーしていたことから、冬季の転換層が利用していたと考えられる。次のダイヤ改正に反映させる。

■お買い物ふれバ

利用される停留所も限定的で、利用者があまり伸びなかった。今後は路線が重複している市街地循環線への転換を図る。

■金沢線

過去2年間より利用者が格段に伸びている。医療大の学生の利用者増が顕著であり、経済的な側面とシステムに学生が慣れたことから、無料で利用できるバスに転換されたと考えられる。利用者が増え続けると、定員を越える事が懸念されることから、運行時間の変更などによる対応が今後の課題となる。

■西当別・あいの里線

過去2年間と比べて、増便しているが平日の利用者数が減少している。土日祝日の利用者は横ばいであることから、通勤・通学での利用者が減少していると考えられる。新たな利用者の発掘を探るためには、当別町からあいの里地区への移動手段とするほか、あいの里地区から当別町への移動手段として利用促進の模索が必要と考えられる。

■みどり野・青山線

西当別・あいの里線と同様に、過去2年間と比べて増便しているが平日の利用者が減少している。土日祝日の利用者は変わらないことから、通勤・通学での利用者が減少していると考えられる。また、平成18年度は冬季の利用者が増加しているが、平成20年度は夏季と冬季の利用者数に変わりがないことから、自転車からの転換層の利用も少ないと判断できる。今後は小中学校向けモビリティ・マネジメントを活用しながら、地域の足となるバス利用を展開し、利用者の増加を図る必要がある。

■SuiSui ふれバ

DRT型の検証と、交通空白時間帯となる深夜のバス利用者を発掘するため実証運行を行ったが、平均利用者数が4人弱と、黒字のラインには届かなかった。実証を始めて1年目のため、住民に対する認知度が低いことが伸び悩んだ原因と考えられる。ただし、年度末の3月に1便当たり利用者が10人に達したことや、リピーターが多いことから、認知度が上がれば更に利用者が増える可能性があることを示している。

DRT型としたことで、予約の無い日は運行を行わないため、平成20年度では18回の運休があり、これにより赤字額の増加を抑えることができた。反面、利用者が1人のみの運行も16日あり、絶対的な利用者が少ないことがSuiSui ふれバ単独での黒字を妨げている。今後は利用者の増加を図るため、積極的な周知が必要である。

(2) 収入に関して

平成19年度から平成20年度にかけて応援券を値上げしたことと、通年の回数券販売を行ったことから、運行収入が1,035万円となり、運行経費に占める運行収入の割合が20.69%となった(平成18年度16.5%、平成19年度19.6%)。さらに、広告収入を取ったことで、事業収入が1,069万円となり、運行経費に占める事業収入の割合が21.39%と向上した。

しかし、2年連続の応援券値上げを考慮すると、当面の間は料金改定が難しいと考えることから、車内掲示や音声映像案内システムの広告収入の増加や、モビリティ・マネジメントなどを活用した意識改善による利用者増が課題となる。

2. 活性化事業に関するまとめ

(1) 設備の充実

バス車内の音声映像案内システムの導入により、利用者の利便性向上と運転手の負担軽減が図られ、サービス向上に期待ができることとなった。単一料金の採用していることからシステムに課金情報を載せなくても良いことが、安価にシステムを導入できた要因である。システムでは、映像による宣伝も可能なことから、バスに関する情報提供のほか、地域コミュニティの活性化に寄与する情報の発信や、企業広告による広告収入の増加も図ることができるなど、バスを活用し新たな取り組みを行える環境が整った。

(2) モビリティ・マネジメントの実施

利用者数が頭打ちになっている現状で、今後安定した収入を確保する為には新たな利用者の発掘のほか、長期に渡る利用促進策の実施が課題である。小中学生に対する将来を見越したモビリティ・マネジメントは、今後町内のバス交通を活性化させるために、きわめて重要な施策と言える。

小中学生を対象とした環境と公共交通に関する授業は、小中学生へのモビリティ・マネジメントの導入編として実施し、担当教諭の理解を得ることができ、次年度以降へ繋げることができた。今後は、環境教育のメニューを増やし、小中学校における使用済みてんぷら油の回収も実施し、地球温暖化防止に対する授業と実践を兼ね備えた取り組みとする。

(3) 使用済みてんぷら油回収システムの導入とバイオディーゼル燃料による運行

運行経費を削減するために検討を行った使用済みてんぷら油回収システムでは、一般家庭からの回収量が1,400ℓと増加したが、目標としている9,000ℓには遠く及ばないことから、今後も継続的な回収促進を図る必要がある。キャンペーンを行った結果、一般家庭からの回収のみならず、回収に協力してもらえる町内事業者も増えた。しかしながら、不況の影響もあり、飲食店の回収量が減少しているため、全体の回収量の増加には繋がらなかった。

バイオディーゼル燃料での運行は、地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出量削減など、環境教育として小中学校で行う授業の題材に最適であり、学校にバスを持ち込み、排気ガスを嗅ぐ体験などは児童に大変好評だった。

また環境省が実施した、削減した二酸化炭素排出量を売買することができる「オフセット・クレジット創出モデル事業」の認定を受けることができ、次年度以降、二酸化炭素排出権の取引を実現できれば、ふれあいバスに新たな価値を付加することができる。

(4) 物流システム導入調査

バスの新たな可能性を見出す目的として、運行している路線網を生かした物流システム導入を検討した。今年度検証した使用済みてんぷら油の回収のほか、次年度は図書返却、バス停間の荷物の輸送について検証を行う。

物流システムを導入するに当たり、当初予定していた農産物等の集荷・配送については決済システムの整備などから次年度以降に検討を持ち越したが、新たなサービス提供とそれによる運行収入の増加を図るためにも、今後も継続して検討する。

3. 次年度に向けて

公共交通を改善する際に必要な要素の一つとして「ターゲットの明確化」が挙げられる。しかし、市街地循環線からターゲットを明確化にして独立させた「ゆとろ線」、「お買い物ふれバ」は、市街地循環線に比べ乗り込みが振るわず、廃止を余儀なくされた。目的地に主眼を置いた路線の構築は、導入以前に行ったアンケート結果とは相反する結果となった。

来年度は利用者属性に主眼を置いたターゲットの明確化、対象を老人と並ぶ交通弱者である小中学生として、路線・料金の改定を行い、利用者の増加を図る。具体的には、市街地循環線のダイヤを小中学校の始業終業に併せるほか、小学生向けの100円利用者回数券の発行、通常の応援券より割安な夏休み・冬休み限定定期の発行など、小中学生の新たな利用者層の発掘を目指す。これらは、小中学生向けモビリティ・マネジメントと連動し、授業で学んだことを実際の生活の中に取り入れやすくするための手法として実施する。

特にターゲットを絞った路線である「SuiSui ふれバ」では2年目の実証運行として、住民の認知度の向上と利用促進策を実施し、単独での黒字化を目指す。1年目のデータから利用者の属性は、普段ふれあいバスを利用する層より、SuiSui ふれバ単独で利用する層が多かった。具体的には、日中町内で活動するいわゆる交通弱者と言われる学生・主婦・老人では無く、日中は札幌市で仕事をしている労働者が大きな利用者層であることから、例えばJR利用者にターゲットを絞った利用促進策を実施するなどの工夫が必要である。

来年度は「バス祭り」の開催を計画し、公共交通と環境に関するイベントとして、特に小中学生を対象としたイベントとすることで、新たな利用者の発掘を目指す。来場者がふれあいバスに乗り乗るイベントを実施し、普段バスに乗らない層への啓発を図るほか、イベント会場までバスを利用してもらうノーマイカーデーを実施するなど、ふれあいバスを利用するイベントとする。また、宣伝のターゲットを町内のみならず、ふれあいバスが走っている札幌市あいの里地区まで広げ、あいの里から当別町に移動するための手段として利用してもらえる新規利用者層の開拓も行う。